

1 内政

弱いラニーニャの影響でポンペイに強い雨と風, しかしすぐに弱まると予測
当地気象当局によれば, ここ数か月のポンペイにおける多量の雨と強い風そして高潮はラニーニャの影響によるもので5月ごろまでには弱まる見通し。

(3月6日付 カセレリエプレス紙)

ヤップ州でパシフィック・パートナーシップが開始

医療, 歯科, 眼科, 獣医サービス及び技術支援を提供するためパシフィック・パートナーシップの人道支援派遣団が3月21日にミクロネシア連邦のヤップ州に到着した。2004年の派遣開始以降, ミクロネシア連邦への派遣は今回で5回目となる。このパートナーシップは, インドネシアにおける大津波被害後, 米国がもっと迅速に対応することが出来たのではないかという分析を踏まえて開始されたものである。ライリー駐ミクロネシア連邦米国大使, クリスタン・ミクロネシア連邦大統領及びヤップ州政府の要人たちが開会式に参列した。

(3月21日付 カセレリエプレス紙)

投票権のない女性議席を検討する議案が提出される

ミクロネシア連邦議会は, 最近ノン・アクティブ (non-active) メンバーとして女性議席を設けるという法案を提出した。同案は各州から選ばれた女性に対して2年間議席を与えるもの。同議席は議会の傍聴及び発言ができるが, 票を投じることが出来ないため, この法案は当国公衆には好意的に受け取られていなく, 数名の女性は差別的であると意見を述べている。

(3月16日付 カセレリエプレス紙)

2 外交

FSM, ユネスコ海底文化遺産に関する条約を批准

ミクロネシア連邦議会はユネスコ海底文化遺産に関する条約を批准した。今次批准によって太平洋に存在する当地海底文化遺産の適切な保護や管理が行われることが期待されている。今後パリのユネスコ本部から批准に関わる確認が届き次第, 批准手続きは完了する。

(3月12日付 カセレリエプレス紙)

中国大使、COMで中国への国費留学に関する説明会を実施

7日、リー当地中国大使はCOMにて中国への留学説明会を行った。説明会には外務省関係者の他、入国管理局・労働局関係者、PICS高校関係者、ディジーCOM学長などが出席した。

(3月8日付 当地中国大HP)

3 経 済

ポンペイ島が今一度贅沢なクルーズ船からの旅行者を迎える

贅沢なクルーズ船（カレドニア・スカイ）が3月3日にポンペイに到着し、ポンペイ観光局によってアレンジされた若いダンサーグループによって歓迎された。旅行客はレンゲル島やケプロイの滝といったようなツアーをそれぞれ選択して参加。島々の小さな売店は工芸品などの商品を販売する事が出来た。このクルーズ船はチューク州、ヤップ州そしてはるばるパラオにまで向かう予定。年に一度のこのクルーズ船旅行は、小型豪華客船で運行され、“The Best of Micronesia:Rabaul to Palau”として、珍しい旅行地への旅はZegraham 遊覧旅行社によって商品化されている。

(3月3日付 カセレリエプレス紙)

ヌクオロ地区の監査報告書が2015年から2016年の財政管理の乏しさを示す

ポンペイ州の監査局によって作成された監査報告書が2年以上に渡る予算の誤用と濫用を示すこととなった。同報告書によると過去の監査報告書にも同様の欠点がある旨が指摘されており、ヌクオロ市長である Leopold 氏は報告書の内容に同意するとともに、州監査局と報告書にある誤りを正すための協力を行うことに同意した。

(3月7日付 カセレリエプレス紙)

リー中国大使がヘンリー資源開発大臣と会談

3月7日、リー在ミクロネシア連邦中国大使がヘンリー・ミクロネシア連邦資源開発大臣と面会した。リー大使が中国の改革の経験について要旨を説明した上で、両者は産業開発へ協力、都市部や未開発部の発展について意見交換を行った。

(3月8日付 当地中国大HP)

ミクロネシア連邦は緑の気候基金のプロジェクトのカントリープログラムを提出—太平洋で初めて、世界で4番目

ミクロネシア連邦は太平洋島嶼国の中で始めてカントリープログラムを提出した最初の国となった。今後は同基金からの援助金を基に優先度が高い気候変動に関するプロジェクトを実施していくことになる。同基金を受け取る資格のある国は46カ国あるが、ミクロネシア連邦はザンビア、アンティグア・バーブーダ及びルワンダに続く4カ国目となった。

(3月26日付 カセレリエプレス紙)

フェフェン島の地主たちが森林管理をより高次のレベルで行う事に合意

3月4日、約一年の話し合いの末、チューク州フェフェン島の集会所で Sapo, Oror 及び Ununo 地区の区長や利害関係者が集まり、森林管理計画に署名した。フェフェン島は同計画に署名した最初の島となった。地主たちは米国森林局から受け取った約1万米ドルを使用しポンペイを拠点とするミクロネシア環境保全基金 (Micronesia Conservation Trust) と共に絶滅危機に直面している在来種などの保護及び再生に取り組む。

(4月9日付 カセレリエプレス紙)

4 経済協力

草の根・人間の安全保障資金協力ヤップ州新規3案件贈与契約署名式の開催

3月1日、草の根・人間の安全保障無償資金協力ヤップ州新規3案件の贈与契約署名式がヤップ州立病院で開催された。それぞれの案件の概要は以下の通り。

1. ヤップ州ルムー(ファニフ)小学校環境改善計画

目的：保安フェンス及び雨樋を設置し、不審者・野犬等の進入による学校施設の破損・汚損及び感染症の蔓延を防ぐことによって、児童に安全・安心で衛生的な教育環境を提供する。

被供与団体：ヤップ州教育局

供与金額：80,320米ドル

供与物：保安フェンス建設設置費及び雨樋設置費

2. ヤップ州コロニア健康センター整備計画

目的：ヤップ州コロニア地区において、運動施設（運動教室、講義室、運動機械設置室、子ども待機室、トイレ・シャワー室及びロッカールーム2室）を整備し、定期的な運動教室及び健康・栄養指導教室を開催す

ることによる非感染性疾患（肥満等）の改善及び予防を図る。

被供与団体：ヤップ州保健局

供与金額：90,000米ドル

供与物：建設工事費

3. ヤップ州廃棄物処理機材整備計画

目的：ヤップ州環境保護局に対しフォークリフト1台、ガラス粉砕機1台を供与することでリサイクル事業の円滑化を図る。

被供与団体：ヤップ州環境保護局

供与金額：85,482米ドル

供与物：5トンフォークリフト及びガラス粉砕器

式典上の挨拶において、ギャニヤン・ヤップ州知事は、長年の日本の援助に感謝の意を示し、今回署名された3件のプロジェクトの背景及び概要を説明した。また、州知事は、第50回ヤップデーに参加するためにヤップを訪れた堀江大使に対し、ヤップでの時間を楽しんで欲しい、と述べた。

これに対し、堀江良一大使は、今回新しく署名された3件のプロジェクトはいずれも大使館が援助を優先すべきと考えているセクター（教育、健康、環境）である事を述べた上で無事に署名式を行えた事を嬉しく思う、と述べた。また、4州全てを訪れた上で、改めてヤップ州のきれいさに驚いた、と述べ、引き続きヤップ州には環境対策を頑張ってもらいたい、と激励した。また、環境対策事業への援助は今回で3回目となるため、過去に日本の援助により建設した処分場や供与したペット容器粉砕機なども引き続き活用しながら、環境対策やリサイクル事業において他州のモデルとなって欲しい、と述べた。

式典には、フィルメッド環境保護局長、レイチハルド保健局長、フィレピン教育局長、イティマイ青年・市民局長、タマケン広報・儀典長、リブヤン広報・情報室長、各局職員、大使館職員等が出席した。

（3月1日付 カセレリエプレス紙）

草の根・人間の安全保障資金協力「チューク州聖セシリア学校スクールバス整備計画」贈与契約署名式

3月5日、草の根・人間の安全保障無償資金協力による「チューク州聖セシリア学校スクールバス整備計画」贈与契約署名式が聖セシリア学校で開催され、31,830米ドルが聖セシリア学校に供与された。

当該プロジェクトは、聖セシリア学校にスクールバスを供与することによって、生徒の

通学時の安全性を高め、悪天候に起因する遅刻・欠席の削減を目指すもの。現在、チューク州には公共の交通手段がなく、また、同校には通学バスがないため、遠距離通学の児童は徒歩で1時間以上かけて通学している。そのため、雨天や豪雨の日は、舗装されていない劣悪な道路が洪水状態となり、徒歩での通学が困難になるため、児童の欠席率及び遅刻率が非常に高くなっている。

式典上の挨拶において、ティム・チューク州知事顧問は日本政府の援助に感謝の意を示し、スクールバスが供与されることで、通学中の生徒たちの安全が確保され、遅刻・欠席率が低下するだろう、と述べた。ダニエル・チューク州 ODA コーディネーターは本プロジェクトを実現してくれた堀江大使や日本国民に感謝すると述べた。これに対し、堀江良一大使は、スクールバスが供与されることで聖セシリア学校の生徒たちが安心して登校でき、より一層勉学に励むことができるようになることを嬉しく思う、と述べ、また、スクールバスが一刻も早く到着する事を願う、と述べた。

式典には、ロソコ・チューク州行政長官、ウィリアム聖セシリア学校運営委員会会長、同運営委員会役員、同校の先生・生徒及び大使館職員が出席した。

(3月5日付 カセレリエプレス紙)

沿岸警備艇KISCAがチューク州で緊急用ボートを贈与

グアムを基地とする沿岸警備艇KISCAはチューク州から85海里離れたところで3人の漁師を救助した。漁師たちは以前KISCAから贈与されたオレンジ色の緊急用ボートに乗っているところを発見された。今回の事件の後、KISCAは新たにチューク州の漁船35隻に対してオレンジ色の緊急用ボートを贈与した。

(3月12日付 カセレリエプレス紙)

ポンペイ州で激しい雨が土砂崩れを引き起こし、命が失われた

2日間に渡って降り続いた激しい雨によって、少なくとも10の土砂崩れが発生し、数件の家が完全に流され、多くの家が被害を受け、帰宅難民が出た。ウー自治区の崖崩れでは1人の女性が生き埋めとなり死亡した。ミクロネシア赤十字は救助に当たっているが、未だに数件の家屋には辿り着けない状況。また、キチ自治区やマドレニウム自治区では橋や道路が崩壊し、安全に通行する事ができず、住民の生活に支障を来している。ポンペイ州運輸局は住民が自宅に帰れるように夜を徹して橋の修復工事にあたった。ピーターソン・ポンペイ州知事は非常事態宣言を発した。

(3月20日付 カセレリエプレス紙)

USNS Marcy が医療資材をユリシー環礁に運ぶ

3月20日、パシフィック・パートナーシップ2018の活動の一環として USNS

Marcy（医療船）がカロライン諸島の一部であるユリシー環礁に停泊し、ヘリコプターで医療資材を届け、医療スタッフが地元の人々の健康診断を行った。

（3月26日付 カセリエプレス紙）

米国内務省が社会保障プログラムへ資金を援助

退役者、身体障害者及びその遺族のための退役信託基金(The Prior Service Trust Fund (PSTF))は、3月、米内務省の技術支援プログラムから助成金を受け取ることとなった。460,900米ドルが2018年度の初めの6ヶ月間利用することができ、追加的な助成額については2018年度の内務省の予算が下りた後に助成されることになる。PSTFは、1968年7月1日以前に少なくとも5年以上米海軍や太平洋諸島信託統治領で従事した人々のために設立された基金である。

（3月26日付 カセリエプレス紙）

5 文化・教育

島の伝統工芸品展が開催

大洋州各国の考古学的な素材と歴史的な物品の展示会が、オーストラリア最北部のWinter Park Florida内のAlbin Pokasek博物館で始まった。この展示会はミクロネシアの考古学者であり、美術・手工芸家であるBarbara Wavellによって企画されたもので、4月15日まで開催される予定。

（3月8日付 カセリエプレス紙）

JENESYS2017 参加証明書授与式開催、同窓会発足へ

3月10日、ミクロネシア短期大学でJENESYS2017の参加者への参加証明書授与式が行われ、堀江大使が出席した。式の冒頭、堀江大使は「JENESYSは島サミット(PALM)の1つの大きなテーマである”人と人との交流”を促進するために作られたプログラムであり、昨年度は29人という大人数がミクロネシアから参加したことを非常に嬉しく思う。このプログラムをきっかけに日本に興味を持つ若者が増え、日・ミクロネシア間の交流が活性化されることを願う。」と述べた。参加証明書授与の前には代表学生4名がパワーポイントやビデオを使ってそれぞれの訪日体験を堀江大使やJENESYSプログラム責任者に報告した。和やかな雰囲気の中で参加証明書授与式が執り行われた後、JENESYSプログラム責任者よりJENESYS同窓会のFSM支部の発足が正式に発表された。今回の授与式の主催者である南太平洋大学(USP)のJENESYSプロジェクトコーディネーター、エリーシャ・バーノ氏とJENESYSプロジェクトアシスタントのエルビス・クマ

ール氏は「JENESYS プログラムは日本から帰ってきたら終わりなのではなく、訪日の経験を今後どう活かしていくか、ということが極めて重要。」と述べました。今後は同窓会として JENESYS プログラムを他の学生に伝える活動を行う予定。JENESYS とは 21 世紀東アジア青少年大交流計画 JENESYS Programme (Japan-East Asia Network of Exchange for Students and Youths) で対日理解交流促進プログラム。今回が 5 回目となった JENESYS2017 ではミクロネシア連邦からは過去最多の 29 名が参加し、「平和構築」、「防災」、「海洋資源」、「貿易・観光」、「スポーツ」の 5 つのグループに分かれて 2017 年 11 月から 2018 年 1 月の間に日本で 9 日間のプログラムに参加した。

(3月10日付 カセレリエプレス紙)